

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.189

2021. 7. 2

発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

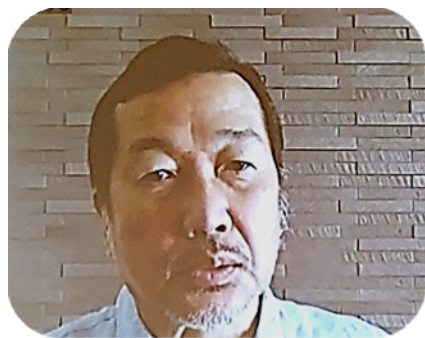
TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

コロナ過に便乗する改憲策動は許すな！…元気な9条の会を！

「2021年九条の会・東北交流会」オンライン開催

5月30日、2年ぶりに東北6県の九条の会交流会を開催。毎年各県持ち回りで主催し、今年は山形をホストに Zoom でつなぎ、オンライン参加も含め、全体で212人が参加しました（岩手は盛岡会場11人のほか、矢巾・水沢などオンライン3か所計31人が参加）。



基調講演では、元東京新聞論説兼編集委員で防衛ジャーナリストの半田滋氏が、「敵基地攻撃と日米一体化～踏み越える専守防衛～」と題して講演。

ミサイル防衛システム導入経緯や実態、非現実的で憲法違反の敵基地攻撃能力について説明し。このままでは米中対立に日本が巻き込まれることを指摘。「それを回避するために、日本は9条をいかして米中に働きかけを」と訴えました。参加者からは、「軍備増強ありきで自主性独

立性のない日本の姿など痛感」「9条を持つ国として平和に立脚した外交力を強める国にならねばと強く思った」などの感想が出されました。

また、各県と東北市町村長の会の取り組み発表も行い。コロナ禍で活動が難しい中、頑張っている姿に刺激を受け、「一人ひとりが憲法の語り部となって署名を広げ、憲法を守り生かす運動を続けよう」と確認し合いました。岩手からは、緑が丘地域9条の会の伊藤直子さんが報告しました。毎年学習会を開催しながら、高校前や大学内、花見などでの宣伝署名行動を他地域の9条の会とも協力しながら実施。今後は、若者とのつながりを持って会員を増やしていき、あきらめずに活動をしていきたい、と報告しました。

東北交流会は、来年度は秋田主催で開催予定です。

＜各9条の会のみなさまへ＞

九条の会東北交流会当日の様子を収録したDVDを現在作成中です。完成しましたら、各9条の会にレジュメとともに配布予定ですので、学習用としてご活用ください。

ただし、DVDは各9条の会メンバーや関連の方々のみで視聴し、不特定多数の方々への貸し出しや上映はご遠慮ください。

7月の街宣活動 9日(金)12:15～12:45

盛岡市大通・野村證券前

3密を避け、宣伝行動を中心にしながら、「改憲発議に反対する全国緊急署名」を呼びかけます。

ご都合のつく方は、ご参加ください！ ※荒天中止



—DVDのご紹介—

「私たちが生まれた島—OKINAWA 2018」

(都鳥伸也、都鳥拓也企画・製作 都鳥伸也監督 2019年 本編141分・特典8分)

島で育った若者たちが見た「今の沖縄」と「これからの沖縄」

2019年に沖縄で行なわれた、辺野古新基地建設の賛否を問う「県民投票」で沖縄の人々が基地建設に明確に「NO」を突き付け、沖縄に希望を与えたことは記憶に新しい。この映画ではその原動力となった元山仁士郎さんの活動や、村議会議員に立候補した3児の母・城間真弓さんの奮闘、戦争で激戦地となった伊江島で育った高校生の中川友希さんが沖縄の過去と向き合おうとする姿を通し、未来を担う沖縄の若者たちが自分たちの視点で基地問題について考え、行動する姿を追った。その軌跡は「今の沖縄」と「これからの沖縄」を知る手がかりになるはずだ。

製作したのは、沖縄の基地問題の歴史を描き、好評を博した『OKINAWA 1965』の都鳥拓也(とどりたくや)・都鳥伸也(とどりしんや)。故郷・岩手県北上市を拠点に活動する双子の兄弟である。37歳の彼らは今作では徹底して沖縄の現在と未来の当事者である島の若者の視点に立ち、彼らの本音と若者らしい等身大の姿を描きだす。

これは、戦後から脈々と基地問題を受け継いできた大人たちから、その想いを自分たちなりの感性で継承しようとする若者たちの記録である。(公式サイトより)



<DVDを無料で貸し出します>

借りたい場合は、岩手県生協連までご連絡ください。

ただし、このDVDは個人観賞用なので、各9条の会メンバーや関連の方々など10人未満でみることはできますが、10人以上での上映会等の場合、1日33,000円(税込)料金がかかります。10人以上での上映会開催の場合は、必ず有限会社ロングラン(0197-67-0714)にご連絡をお願いします。

コラム — 新型コロナ禍の下、「G7 中国への圧力鮮明」となる！けない

新型コロナ禍、パンデミックのさ中、6月13日、首脳宣言を採択し、3日間の日程を終了したとのことであります。

同宣言のポイントは次のとおり。(1) 台湾海峡の平和と安定の重要性を強調、(2) 東・南シナ海での中国の威圧的行動に「深刻な懸念」、(3) 東京五輪・パラリンピック開催を支持、(4) (途上国などに) 来年にかけて資金や現物でワクチン10億回分相当を支援(通信社配信記事)。

世上、「G7 中国への圧力鮮明」をテーマに「台湾や人権尊重明記」「仏独難色も押し切る」「日米、密に作戦会議」の見出しが躍りました。コラム子はこのコラムで中国の国際問題での言動に対して、「国際的信用を高めるような言動をして欲しい」旨の期待を表明して来ましたが、それにしても中国の肩を持つわけではないが、G7は自国の人権、民主などは棚に上げて、「先進国入り」を目指して「国家発展の計画」を進める中国の「国際行動」の「粗さ」をとらえて、こうもあからさまな「包囲網」を「議論」するのかと呆れるのはコラム子だけでしょうか。国際社会は「G7は人権、民主などで国際的模範を示せ！」と諫めるべきではないでしょうかと思います。

とりわけ日本は菅政権を先頭に、4月16日の「日米首脳会談」以来、「積極的に米国への追従」「軍事的役割の分担」を露わにしており、菅政権・自公政権をストップさせなければならない状況です。

いまこそ、日本国憲法に基づく「平和国家づくり」のため、日本国憲法を守り、生かす国民的運動を強めることが求められると思います。(T)

「9条改憲NO! 改憲発議に反対する全国緊急署名」(6月末現在)

岩手の署名数 2万3千筆